



## 第4回 ブレストケアチーム ニュースレター

発行者：薬剤部 小川 佳良子

### 乳がん治療中の新型コロナウイルスワクチン接種について

多くの自治体で新型コロナウイルスワクチン接種の予約が始っています。がん患者様にとって、ワクチン接種をした方が良いか？有効性はどれほどか？安全性は大丈夫か？副反応のリスクが高まる事はないか？がん治療に影響を及ぼすことはないか？など、不安や疑問があるかもしれません。

厚生労働省より、治療中の悪性腫瘍は優先接種の1つにあげており、ワクチン接種は前向きに検討する事を推奨しています。

乳がん治療中であっても、基本的にはワクチンの接種は可能です。必要に応じて治療のスケジュール調整を行ったり、ワクチン接種による副作用の影響などを適切に把握する必要がありますので、**ワクチン接種の時期などを、主治医としっかり相談をしてからワクチン接種を受けましょう。**

そこで今回は、治療内容によって、適切な接種タイミングや注意点などについてご紹介いたします。

### 手術療法

手術前・手術後どちらでもワクチン接種は可能です。

手術とワクチン接種のタイミングとして考慮すべきこととして、接種後の発熱や悪寒があります。発熱は1回目の摂取ではまれですが、2回目の接種では15%に発症すること、接種後1～2日、長くとも1週間以内に消退する事が知られています。待機的に予定できる手術では、当院では手術日からワクチン接種日の間隔を、手術日の2週間前から手術日の1週間後まであけることにしています。

### 放射線療法

放射線治療中、あるいは治療前後であってもワクチン接種は可能です。

ワクチンの接種の時期、注射の場所、治療内容に関連した注意事項などについて、担当の放射線腫瘍医に相談することをおすすめします。ワクチン接種と放射線治療のタイミングに関するデータはありません。しかし、発熱・倦怠感などのワクチンの副反応で放射線療法を休止することは避けるべきです。そのため、可能であれば翌日照射のない週末などに接種を受けるのも良いかもしれません。

### 薬物療法

抗がん剤やホルモン療法などの薬物療法中であっても、ワクチン接種は可能です。薬剤の種類によって注意点が異なります。また複数の薬剤を組み合わせる事や、術前又は術後化学療法など、投与期間が予定されている場合もあるため、主治医へご自身の治療内容を確認し、ワクチン接種の時期について等相談されることをおすすめします。次のページで各薬剤について投与タイミングや投与後の注意について紹介します。

1) 細胞傷害性抗腫瘍薬（例：エンドキサン・エピルビシン・パクリタキセル・ドセタキセル 等）

接種のタイミング：どのタイミングで接種を行うのが望ましいかについては明確なデータはありません。このため現時点では細胞傷害性抗腫瘍薬投与中のどのタイミングでもワクチン接種を行うことはできますが、可能であれば下記のタイミングは避けた方が望ましいかもしれません。

- ・ 殺細胞性腫瘍薬投与日（制吐剤として使用されるステロイドによるワクチン効果減弱の可能性があるため）

- ・ 骨髄抑制のため白血球数が最小になる時期（ワクチン効果減弱の可能性があるため）

- ・ 血小板減少を伴うレジメンで血小板減少時期（筋肉注射による血腫のリスクを避けるため。）

- ・ 投与予定日前の2～3日以内（ワクチン接種後2～3日は発熱を認める事があるため）

接種後の注意：骨髄抑制時期の前後でワクチン接種を行った場合、ワクチン接種の副反応による発熱なのか、発熱性好中球減少なのかの判断が困難になる可能性があります。発熱した場合は発熱性好中球減少として対応する事が望ましいと思われます。また、薬剤性の間質性肺炎との判別もつきにくいので注意が必要です。

2) 分子標的薬（例：ハーセプチン、アバスチン、アフィニトール錠 等）

3) 免疫チェックポイント阻害剤（例：テセントリク 等）

接種のタイミング：特にワクチン接種を避けるべき時期は特に想定されていません。が、注射剤の場合、可能であれば下記のタイミングは避けた方が望ましいかもしれません。

- ・ 投与予定日前の2～3日以内（ワクチン接種後2～3日は発熱を認める事があるため）

投与後の注意：分子標的薬のアフィニトールや、免疫チェックポイント阻害剤には間質性肺炎に注意が必要です。ワクチンを接種して発熱を認めた場合、ワクチン接種による発熱なのか薬剤性肺炎による発熱なのか検査を行わなければ判別がつきにくくなる可能性があります。薬剤性肺炎のリスクは患者様によってそれぞれ異なりますので、ワクチン接種後発熱した場合の受診の要否・タイミングについて予め主治医と相談しておくことが望ましいと思われます。

4) ホルモン療法（アナストロゾール錠・タモキシフェン錠 等）

接種のタイミング：連日内服の薬剤のため、どのタイミングでも接種は可能です。

最後に・・・

今回ご紹介した内容は、日本癌治療学会・日本癌学会・日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とがん診療についてQ&A-患者さんと医療従事者向け ワクチン編 第1版（2021年3月29日 リリース）を元に作成しました。ネットでも公開されていますので、ご参考にしてください。

